

保活ワンストッププロジェクト 第1回 事業運営検討会議事録

日時 令和6年8月7日(水曜日)13:00~14:30
場所 東京都庁第一本庁舎 33階 特別会議室S1・オンライン

出席者

【委員】

福田 巖 東京都デジタルサービス局
2030戦略担当部長(こどもDX推進担当部長兼務)

土田 文紹 一般財団法人 GovTech 東京 デジタル戦略本部 デジタル戦略本部長

保泉 正憲 板橋区子ども家庭部保育運営課長

高橋 皇介 (代理出席)足立区DX推進アドバイザー

米内山 桂 調布市子ども生活部保育課長

小池 義則 一般社団法人こどもDX推進協会 代表理事

小林 弘一 社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 保育部会 常任委員

土橋 一智 一般社団法人 東京都民間保育園協会 副事務局長

諏訪 佳子 板橋区立かないくぼ保育園園長

沢井 範子 足立区立伊興保育園園長

佐合井 純 調布市立富士見保育園園長

栗原 正明 こども家庭庁成育局 保育政策課長

【オブザーバー】

飯嶋 威夫 内閣官房デジタル行財政改革会議事務局 参事官
(ゲストスピーカー) 高井 勇輝 Takram Japan 株式会社

【関係事業者】

デロイトトーマツコンサルティング合同会社
BABYJOB 株式会社
株式会社コドモン
千株式会社
ユニファ株式会社
日本ソフト開発株式会社

【事務局】

竹内 智美 東京都デジタルサービス局デジタル戦略部 こども DX 推進担当課長 以下担当
亀割 岳彦 一般財団法人 GovTech 東京 デジタル戦略本部本部長補佐 以下担当

次第1. 開会・出席者紹介

○ 竹内 こども DX 推進担当課長 それでは、ただ今より、保活ワンストッププロジェクト第1回事業運営検討会を開会いたします。私は、東京都デジタルサービス局 デジタル戦略部 デジタル戦略課 こども DX 推進担当課長 竹内と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。本日はお忙しい所、本検討会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

まず、会場にお越しの皆様配布させていただいております資料の確認をいたします。資料1 次第及び出席者一覧、資料2 事業概要・開催趣旨説明、資料3 子育て分野(保活)におけるサービスデザイン導入に係る調査研究報告書説明、以上になります。不足がありましたらお知らせください。では、これより次第に沿って進めさせていただきます。本日出席いただいている委員及びオブザーバーの皆様、関係者の皆様をご紹介いたします。出席者一覧に沿ってご紹介させていただきます。

東京都デジタルサービス局2030戦略担当部長(こどもDX推進担当部長兼務)福田 徹委員でございます。

一般財団法人 GovTech 東京 デジタル戦略本部 デジタル戦略本部長 土田 文紹委員でございます。

板橋区子ども家庭部保育運営課長 保泉正憲委員でございます。

足立区子ども家庭部保育・入園課長 柳瀬晴夫委員の代理として、

足立区DX推進アドバイザー 高橋 皇介委員でございます。

調布市子ども生活部保育課長 米内山 桂委員でございます。

一般社団法人こどもDX推進協会代表理事 小池 義則委員でございます。

社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 保育部会 常任委員 小林 弘一委員でございます。

一般社団法人 東京都民間保育園協会 副事務局長 土橋 一智委員でございます。

板橋区立 かないくぼ保育園園長 諏訪 佳子委員でございます。

足立区立 伊興保育園園長 沢井 範子委員でございます。

調布市立 富士見保育園園長 佐合并 純委員でございます。

こども家庭庁成育局 保育政策課長 栗原 正明委員でございます。

オブザーバーとしてご参加の、内閣官房デジタル行財政改革会議事務局参事官 飯嶋 威夫様でございます。

また、次第6にて、デジタル行財政改革会議事務局が行った調査研究報告書のご説明をいただきます、Takram Japan 株式会社の高井 勇輝様でございます。

続きまして、関係の事業者様をご紹介いたします。恐れ入りますが、私の方から、社名のみご紹介させていただき、役職名・お名前につきましては、出席者一覧をもって代えさせていただきます。まず、保活情報連携基盤の構築事業者としてデロイトトーマツコンサルティング合同会社様。民間保活システム事業者として、ベビージョブ株式会社様、株式会社コードモン様の2社。保育 ICT システム事業者として、千株式会社様、ユニファ株式会社様、日本ソフト開発株式会社様、民間保活システム事業者と兼任になります、株式会社コードモン様の4社にご参加いただ

いております。皆様どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、次第の2、主催者挨拶に移らせていただきます。

次第2. 主催者挨拶

○ **福田 こども DX 推進担当部長** 改めまして、東京都デジタルサービスこども DX 推進担当部長をしております、福田と申します。よろしくお願いいたします。保活ワンストッププロジェクトの実施、それからこの度の事業運営検討会に開催にあたり、東京都と GovTech 東京を代表致しまして、一言ご挨拶申し上げます。

本日までご参加いただいております皆様におかれましては、大変お忙しい中、本事業運営検討会の委員をお引き受け頂きまして、誠にありがとうございます。御礼申し上げます。

本プロジェクト、保育園探しから入所申請までがワンストップで完結するシステムにつきまして、2025 年度までの実現を目指していくというところでございます。また、この秋にはサービスを開始いたしまして、皆様にお使いいただけるようなシステムを目指していくことを考えているところでございます。

都では、昨年12月にデジタルを活用した子育て分野のサービス変革に向けまして、4つのプロジェクトを推進しております。1つ目が本日の保活ワンストップ。それからプッシュ型の子育てサービス、母子保健オンラインサービス、給付金手続の利便性アップ。こういった4つのプロジェクトについて推進しているところでございます。

中でもこの保活ワンストップは、国の交付金を活用いたしまして、全国の統一的、標準的なデジタル基盤につながるプロジェクトでございます。省庁の皆様や連携する自治体の皆様、それから保育施設の皆様、事業者の皆様、こういった多様な方々との連携が、非常に重要という風に考えているところでございます。また、この子育て当事者の方々や現場の保育施設関係団体の皆様のご意見をしっかり活かしながら、ユーザー目線に立った取り組みを進めていきたいという風に考えているところでございます。

この検討会のお場を活用いたしまして、皆様の知見でございますとか、現場感覚に基づく率直なご意見をいただきまして、子育て当事者にとっても保育現場にとっても、使い勝手が良く満足度の高いシステム構築につなげていきたいと考えているところでございます。

保護者の方々に利便性の高いシステム、サービスを展開していくために、忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

○ **竹内 こども DX 推進担当課長** 東京都こども DX 担当部長の福田より、ご挨拶を申し上げます。続きまして、次第の3、事業概要・開催趣旨説明でございます。

次第3. 事業概要・開催趣旨説明

○ 竹内 こども DX 推進担当課長 まず、保活ワンストップの取り組みですが、保育園探しから入園が決まるまでの、保護者による一連の活動、いわゆる「保活」にかかる手続を、ワンストップ・オンラインで完結する、ワンストップシステムの実現を目指しています。

東京都におきましては、こども DX のプロジェクトの1つに位置付けておりまして、今年度は赤枠で囲んだ保活のステップのうち、情報収集、見学予約の所に係る利便性の向上、そしてオンラインでの申請手続きに円滑に移れる、という所をスコープとしております。

取組の背景といたしまして、具体的に何が保護者の負担感につながっているのかを共有します。この、保護者目線での保活の現状につきましては、後程、国の調査研究報告で詳しくご紹介いただきますが、ここでは、今年度の東京都における取組に係る部分に絞ってご説明させていただきます。

まず、通えそうな保育施設に関する情報集めや、自治体への入所申請に必要な手続はどういったものかの情報収集が大変だと言われています。次に、候補の園を見学するとき、その予約は、園が開いている時間帯に電話をかけて予約します。赤ちゃんのお世話や仕事の隙間で電話をかけることが負担だと感じる方が多いようです。さらに、いざ入所申請をするとき、オンライン化されていない自治体ですと、募集要項を取り寄せるなどして手書きで記入し、自治体が指定する場所に出しに行くことが必要となります。こうした、保護者が負担を感じる保活の手続き、情報収集見学予約入所申請等を、スマホから、民間の保活サイトやアプリ、これを「民間保活システム」と呼称していますが、これらを通して、オンラインワンストップでできるようにし、保護者の負担軽減につなげることを目的としています。

なお、本プロジェクトに参画する民間保活システムは、公募により、ベビージョブ(株)様が運営する「えんさがそっ♪」と、(株)コドモン様が運営する「ホイシル」の2つとなります。

具体的な取組を改めて共有させていただきます。まず概要ですが、この保活ワンストッププロジェクトは、国のデジタル田園都市国家構想交付金 TYPES を活用して実施します。このデジ田交付金 TYPES は、デジタルを活用した地方公共団体の取組のうち、国や地方の統一的・標準的なデジタル基盤への横展開につながる見込みのある、先導的な取組に対し、国が推進にかかる経費の支援、あるいは伴走支援をするというものです。従って、本プロジェクトにつきましては、TYPESに示されたスキームや事業要件を元に実施する、という前提となっております。

また、連携自治体として、板橋区足立区調布市の3区市に参画いただいております。東京をフィールドに、全国展開を見据えた仕組みを作っていく、という取組でございます。

次に、取組内容ですが、新規に保活情報連携基盤というものを構築します。構築は、東京都の政策連携団体で、このプロジェクトにおいて東京都の協働実施主体である GovTech 東京が行います。この基盤と民間保活システム、それから保育園保育施設に入っております保育 ICT システムとを連携させることで、保活ワンストップシステムを構築します。詳細については後ほど、GovTech 東京よりご説明させていただきます。これにより、秋からサービスを開始

していく予定でございます。規模としては、3区市 120 園程度の保育園にご参加いただく予定です。システム構築や検証、改善にあたりましては、この事業運営検討会の枠組みなどを活用しまして、関係の皆様と意見交換を行いながら、利便性の高いものとしていきたいと思っております。

続いてのスライドは、事業概要をまとめたものになります。事業目的は、ご説明してきたとおりでございます。事業主体は、東京都及び GovTech 東京です。なお、交付金 TYPES に係る申請事務や国との連絡調整などにつきましては東京都が行うとともに、連携自治体の財政負担は生じない形で事業を実施してまいります。次に都と GovTech と3区市の役割分担についてお示しします。東京都が、全体統括、予算管理、自治体との連絡調整、広報、効果測定等を担います。GovTech 東京は、保活情報連携基盤の構築および関連のシステム改修に係るプロジェクトマネジメントを担います。連携自治体は、保活情報連携基盤構築にあたっての関係情報提供をいただきます。これにつきましては、これまで都と3区市で2週に1回の定例会を通じて密にコミュニケーションを取って進めさせていただいているところでございます。また、参加保育施設の確保やユーザーとなる保護者への協力依頼等を連携自治体をお願いしております。最後に、保育施設は基盤に集積する施設情報の入力や編集、今回構築するシステムによる見学予約対応、KPI測定へのご協力をお願いしております。事業期間としては令和6～8年度の3か年です。

続きまして、保活ワンストップシステムではどのような情報が収集できるのか、ご説明いたします。今ご覧いただいているスライドは、構築中の保活情報連携基盤で一元化していく、保育施設情報のデータ項目案です。TYPES の要件として、太字の項目については基盤に一元化することが求められております。左の一覧表の基本情報は、国の既存の保育施設データベースである「ここ de サーチ」に登録されている情報を抽出して登録することとされています。右側の表の付加情報は、TYPES で新たに充実させる項目であり、保護者が保活で知りたい情報とされる項目です。これらの項目について、東京都と連携3自治体は、基盤に登録する、より詳細なデータ項目を整理し、必要に応じてデータ項目の定義を整理致しました。例えば、付加情報のナンバー6、園庭の有無、については、基盤上に登録するときには 園庭代替園庭を選択できるようにし、施設内に園庭がある場合は「園庭」を選択、代替園庭のみの場合は「代替園庭」を選択し、また別のデータ項目として、代替園庭名を記載できるようにしています。また、駐車場の有無につきましては、保護者が利用できる駐車場のことを指します、というように考え方を明示しています。これらの情報を、保護者は、民間保活システムを通じて検索取得することができるようしております。

次に、保活情報連携基盤に一元化する、入園申請の手続情報、保育施設の月次空き枠情報の一覧となっております。こちらにつきましても、太字の項目を細分化して、基盤に登録する際のデータ項目を整理した案です。

続きまして、保育施設の園見学予約受付の現状について、参加保育施設にアンケート調査した結果を共有させていただきます。今回、オンラインでの見学予約ができるようにするにあた

り実態を把握するため行ったものです。まず、見学予約の受付方法ですが、1つ目のマル、保護者から入る見学予約は98%が電話です。次に2つ目のマル、電話予約において、園と保護者の間で見学日時はどのように決めていくかですが、通話しながらその場で確定するのが大半のようです。見学予約は電話でのコミュニケーションによる場合がほとんどとなっております。また、右側に移りまして、見学可能日の設定等についても聞きました。1つ目のマルですが、見学は通年で受け入れている保育施設が92%となっております。見学可能日については、あらかじめ設定している、あるいは繁忙期のシーズンのみあらかじめ設定しているという保育施設が多数派という結果になりました。こうした状況を踏まえた上で、使いやすいシステムにする必要があると考えております。また3つ目のマルですけれども、電話で受けた見学予約情報の記録や保存につきましては、手書きで受付簿やメモ用紙に記録して職員間の共有を図るというお答えが多かったということで、オンライン化により効率化が見込めるのではないかとこのように考えられます。

続いてのスライドは、本プロジェクトにおける検証項目についてです。TYPESは、将来的に全国の標準的な基盤となることを見据えており、検証結果を含め国への報告が求められています。具体的には、システム検証として、保活情報連携基盤の動作検証や、基盤と接続する各システムについて、動作検証が求められます。

また効果検証として、参加ユーザーや参加保育施設へのアンケート調査等を通じ、ご覧の項目についてKPIの計測が求められています。参加ユーザーを対象とした項目としては、保活に関する満足度、保活に係る所要時間など。参加施設を対象とした項目としては、施設見学予約のオンライン申請率や、満足度などをとっていく予定です。これらについて一番右の列のとおり、目標値も国から示されています。

続きまして、事業運営検討会の開催趣旨をあらためてご説明します。本検討会は、事業の実施にあたり、国、参加事業者、参加ユーザー、参加施設の代表、保育施設団体、こどもDX協会等の関係者の参加を得て、定期的開催させていただいております。設置目的としましては、「保活ワンストップシステムの構築及びサービスの実施にあたり、本プロジェクトに参画する関係者等の意見を取り入れ、より良いサービス作りのために検証や改善を行う」ことに置いております。構成は御覧の図のとおりとなっております。検討会の「委員」としては、事業主体である東京都、GovTech 東京、連携自治体、及び図の右半分(⑦~⑪)の方々です。左側のシステムサービス提供側に対して、右側の業界関係者や利用者が意見をお出しいただく、という趣旨の会となっております。皆さま方には、ぜひ、忌憚のないご意見をいただき、ユーザーの満足度の高い、利便性の高いサービスに磨き上げていきたいと思っておりますので、ご協力よろしく申し上げます。

最後に、本検討会の今後の開催時期や内容について共有させていただきます。スライドの開催概要(予定)と下のスケジュールとを合わせながらご覧ください。

本日が第1回キックオフの位置づけで事業概要やスケジュール共有をした上で、ご意見や、プロジェクトに対して期待することなどを、委員の皆様より頂戴したいと思っております。第2

回は 10 月頃を予定しております。構築したシステムでのユーザーテストを実施後、リリース前のタイミングを予定しております。第3回は 12 月、リリース後、一定期間経過後のタイミングで、運用状況を事務局から委員の皆様へ報告し、意見交換を予定しております。第4回は2月、効果測定の結果とりまとめ後の開催を予定しており、効果測定の結果をご報告の上、意見交換をさせていただきたいと考えております。なお、第3回以降、ユーザーである保護者代表の立場の方からのお声をいただくために、何等かの形でご参加をいただく予定でございます。以上、駆け足となりましたが、事業概要のご説明及び本会議開催趣旨説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。

続きまして、システム概要・スケジュール説明でございます。事務局を代表いたしまして、GovTech 東京デジタル戦略本部本部長補佐の亀割よりご説明を申し上げます。

次第 4. システム概要・スケジュール説明

○ **亀割 デジタル戦略本部本部長補佐** いつもお世話になります。GovTech 東京デジタル戦略本部の亀割と申します。着座のまま失礼いたします。私の方から、システムの概要とスケジュールについて 5 分程度でご説明申し上げます。

まずシステムの概要ですが、ご覧の資料の図から説明をさせていただきます。保活ワンストップに関するシステムは、東京都と政策連携をしている GovTech 東京、私どもの方で構築を担っております。本システムの開発は、保護者がスマホ等で利用する民間保活システム。これは図の左側になります。保護者達が利用する民間保活システム(図の左側)と、図の右側に示されている保育園で職員の方が利用されている保育 ICT システム、こちらをつなぐ保活情報連携基盤(図の真ん中)の構築を行っております。これに合わせまして、周りの各システムが API を通して連携し、データですとか機能を提供し合うための改修を行っていくといった開発となります。

本システムは、保育園の施設情報ですとか、見学予約の管理情報、その自治体における入所の手続き情報を連携いたしまして、入所申請へとつなげるということで、保活に関する一連の手続きを、任意の民間保活システムを通じてワンストップで行うことを実現するというごことでございます。これにより、保護者の利便性の向上を上げる。今、労力負担を軽減しなければという声に応えるべく、この部分を図っていくということです。併せまして、保育施設におけます見学予約の関係の承認業務、園運営をやりながら、煩雑な業務があると思います。こちらの業務の軽減ですとか、あとは自治体側で手続きですとか、施設に関する問い合わせ等の業務の負担軽減にもつながると考えております。

図より具体的な流れをご説明申し上げますと、まず左側、保護者さんは保育施設の検索をまずはすると思います。家の近くですとか預けたい施設だとかってという観点で、保護者様が保育施設を検索する、その情報は、どの自治体でもどの保育施設でも必要かつ最新の情報が同じ画面上で検索確認することができます。その情報に関しては、右側に記載の保育施設さんの方

で、情報の更新を行っているという形になります。その次に、保護者さんは希望する保育園の目星がつかましたら、施設の見学をしたいと思った時に、この同じシステムから施設に対してオンラインで見学の申請をすることができます。この申請は、オンラインで保育施設の方に届きまして、保育施設の方では今まで電話で応対をしていたと思うんですが、オンラインの方で承認・不承認という形で通知を返すという手続きであります。この手続きは、どの保育園でも同じ形になります。また、保護者は見学予約情報をいつでも確認することができます。

次に、その保育園に入所しようと考えた際に、保育園の空き状況を確認することができます。合わせて入所に関する必要書類、調整指数ですとか、保育料などの手続きに必要な情報を確認することができます。この情報に関しましても、右側にあります自治体側の方で保活情報連携基盤の方に登録更新を行っております。ここまでが、民間保活システムというところで、保護者さんが使うという形になっております。

最後に、その保育園に入所申請を行うと決断をされた場合には、左側の保護者の民間保活システムが一番下に記載があります通り、民間保活システムから各自治体の入所に関する電子申請、システム手続きの該当ウェブページ、URL リンクを押していくという形になっています。以上が、システムの改良になります。

今回は、3自治体の約120園の連携となります。今後、各自治体各社の様々な違ったサービスシステムがあっても、この基盤に接続すれば連携が可能となりますので、拡張性が高いと考えています。また、連携自治体や保育園が多くなればなるほど、保活に関する一連の行動が一括して行えるものとなりまして、利便性はさらに向上していくものと考えております。GovTech 東京といたしましては、今後の保育サービスのあり方として、社会にも注目度が高く、意義のあるプロジェクトと認識して、取り組んでおります。次のページをお願いします。

スケジュールでございます。現在仕様の要件ですとか、詳細の設計を詰めているところでありまして、特に肝となります。API の連携についての設計を重点的に行っているというところ です。9月いっぱいまでを開発改修といたしまして、その後テストを行いまして、10月末を目途に実装する予定で進めております。民間保活システム保育 ICT システムは、先ほどご紹介 ありました通り、複数のバンダーさんによるものとなっております。こちらごとに開発日程はありますが、リリース予定は概ね変わらない予定で、現在進めています。ぜひ保活がピークとなります、11月から1月頃には本システムが活用できる状態となっているということで、稼働後は運用効果測定を行いながら、年度末の2月頃より国の TYPES 交付金を活用した検証報告書の作成を行ってまいります。本スケジュールを基本に、システムの進捗を確認しながら、迅速かつ柔軟に進めて参ります。報告は、以上でございます。

次第5. 質疑応答

○ 竹内 こども DX 推進担当課長 ありがとうございます。ここで、質疑応答の時間を取らせていただきます。ご不明点等ございましたら挙手いただき、ご質問頂ければと思います。オンラインの方は、挙手ボタンでお知らせください。これまでご説明してきた内容につき、何かご不明点などいかがでしょうか。

土橋委員、お願いいたします。

○ 土橋 委員(一般社団法人 東京都民間保育園協会 副事務局長) 東京都民保協の土橋でございます。ご説明いただき、ありがとうございます。ここでいう保育園とか、保育施設という言葉が、書類上の発言からも出ていますが、これについては2号認定児、3号認定児が入所する施設というような定義でよろしいでしょうか？保育施設も今は種別がいろいろありますので、2・3号という認定を受ける、利用調整を受ける施設という理解でよろしいでしょうか？

○ 竹内 こども DX 推進担当課長 ご質問ありがとうございます。利用調整を受ける保育施設の種別ということでございます。認可保育園と認定こども園と小規模保育施設を対象としております。他にいかがでしょうか？栗原委員お願いします。

○ 栗原 委員(こども家庭庁育成局 保育政策課長) こども家庭庁保育政策課長の栗原でございます。本日はありがとうございます。保活ワンストップは令和8年度から国の方でも実装するべく準備を進めている中での先行実施に感謝しております。

2点質問ですが、1点は3区市で実施するという事で約120園ということですけど、この120園ってというのは、その3区市の全園というイメージなのか、どれぐらいのシェアなのか、あと全園でないのであればそれ以外のところはどのような対応される見込みなのかという点。保活ワンストップのシステム自体はこういう話だと思いますが、多分その実際現場でやれる中では、まさにその現場での保活と合わせながらやっていくということなので、その辺どの様に捉えられているのかなというのが1点。

もう1点はちょっと趣味的な質問になってしまいますが、開発期間、結構短くなっていう気もしましたが、大体この規模のこの形のものとこれぐらいの、実質多分3~4ヶ月ぐらいでも要件定義から始まって、システムを作り上げて、始めますという感じになっていますね、その辺りこういうものなのか、それとも何かこれを進めていく上で、結構ご苦労・ご懸念の点があるのか、もしあれば、そういう点もお聞きしたいと思います。2点お願いします。

○ 竹内 こども DX 推進担当課長 はい、ご質問ありがとうございます。1点目につきましては、今年度は、3区市の中で手上げをしていただいた保育園さんにご参加いただいておりますので、全ての保育園数だともっと多いです。後ほど事務局からお伝えさせていただきます。今後ですけれども、また来年度も本事業を続けていく予定となっておりますので、規模の拡大等も

所管としては考えております。2点目については GovTech 東京からの回答をお願いします。

○ 亀割 デジタル戦略本部本部長補佐 2点目ですが、開発期間が厳しいのはおっしゃる通りで、相当厳しいです。特に、複数の違うシステムと連携を図るとい難しさですとか、保育所含めユーザーさんの満足度を上げていかなければいけないというところがあります。この調整も含めながら、この短い期間でやっていくという大変難しいプロジェクトだと思っております。ただ、基盤のデロイトさんを中心に、各ベンダーさんと話し合いで調整等を重ねておまして、今10月末のリリースに向けて取り組んでいる状況です。

○ 事務局 事務局の東京都デジタルサービス局木村と申します。よろしくお願いいたします。先ほどご質問があった各区市の中での、今回の参加施設の割合というところですが、自治体によっても異なりますが、板橋区足立区に関しましては、認可保育所と小規模園を母数としているんですけども、全体の約25%弱の園に、今回ご参加をいただいている形になります。調布市につきましては約半数ということで、50%程度ご参加いただいております。

○ 竹内 こども DX 推進担当課長 はい、ありがとうございました。続いて次第の6.子育て分野(保活)におけるサービスデザイン導入に係る調査研究報告のご説明ということで、オブザーバー参加いただいております、内閣官房デジタル行財政改革会議事務局 飯嶋様、どうぞよろしくお願いいたします。

次第6. 子育て分野(保活)におけるサービスデザイン導入に係る調査研究報告書説明

○ 飯嶋 オブザーバー(内閣官房デジタル行財政改革会議事務局 参事官) ありがとうございます。保活ワンストップにつきましては、昨年来、関係者の皆様とご議論を重ねさせていただき、本日こうやって着実に進んでいただけていることについて感謝申し上げます。

ここからプロジェクトの具体化という、より重要な局面にまいりますので、関係者の皆様の叡智、お力を貸していただき、ぜひ保護者の負担が本当に軽減できる、より良い仕組みを作っていただくようお願い申し上げます。

このデジタル行財政改革では、利用者起点ということを重視していきまして、サービスデザインの手法なども使いながら、あるべき姿というのを検討するというところで、サービスデザインファームのTakram様にお申し、こどもDX推進協会の皆様にもご協力いただき、保護者の方々や、保育施設の方々、また自治体の方々に丁寧にインタビューを行っていただき、それをカスタマージャーニーマップやサービスブループリントの形でまとめております。今後プロジェクトの具体化にあたって参考になるかと思っておりますので、本日少しお時間を頂戴してご紹介できればと思っております。

では、Takram 高井様ご説明、お願いいたします。

○ 高井氏(Takram Japan 株式会社) よろしくお願ひいたします。私のほうで画面共有してお伝えしたいと思います。改めまして、前フェーズとしまして、保活に関する調査研究を担当いたしました Takram 高井と申します。よろしくお願ひいたします。こちらの調査研究につきまして一部抜粋とはなりますが、簡単に10分ほどお時間頂戴しましてご説明いたします。

まず、調査の方法としましては、デザインリサーチの手法を用いまして、当事者である子育て家庭を中心に、自治体のご担当者様及び保育所のご担当者様も含めた三者へのインタビューを通じて、現状の保活に関する定性的な課題背景を立体的に深掘するということを実施いたしました。そちらをもとにしまして、現状の保活体験の流れと気づきをカスタマージャーニーマップにまとめたもの、及びそれを踏まえた理想の保活の流れをサービスブループリントという形で作成を致しました。

こちらがインタビュー調査をもとに整理しました現状の保活体験の流れと気づきとなります。少し画面ですと文字が小さいかと思しますので、お手元の資料も合わせてご参照いただければと思います。保活のステップごとに、左から順に主な気づきをご紹介します。左から順に主な気づきをご紹介します。また今回、右の方の見学実施から結果通知までのフェーズにつきましては、今回の取り組みにおいては、スコープ外ということですが、参考としてこちらをあわせてご紹介させていただきます。

まず、一番左側保活の開始の部分ですが、現状は能動的に子育て家庭の方々が役所の窓口に向かえば、基本的には何も始まらない、というところが皆様の声からもありまして、明示的にこの保活の開始というステップ自体が存在しない、というところそのものが、ある種課題と思っております。それによって、気づいた時にはその準備のタイミングを逃してしまい、保活のスタートから大きくつまづいてしまうというような、そういったケースがインタビューの中でも多々存在いたしました。

次のところ、保活全体及び保育園に関する情報収集のところですが、こちらでは担当者ごとに、聞く相手によって、属人的な情報が返ってきたり、あるいはその保育所の区分によって、情報のありかが散在していたりする、というところがあります。そういった散在している情報を、子育て家庭の方々が、独自に収集整理をしながら各種の検討を行っていることが調査によって分かりました。これは裏を返せば、パソコンの有無ですとか、あるいは表計算ソフトのスキルの有無ですとか、一定以上の IT 情報処理リテラシーがなければ、実質的にその保活の土俵に上がれる、上がれないというところが左右されてしまうというところが見受けられました。

次の見学予約のところですが、こちらは先ほどもご紹介のあった通りです。日中電話での見学予約をするということは、子育て家庭側の負担感是非常に大きいということがわかっております。ですので、こちらはオンライン予約というところは顕在的なニーズであることがこちらの調査でも確認ができました。

また、その次の見学実施のところですが、自治体の方々、保育所の方々も口を揃えて、ミスマッチを避けるためには、見学にはぜひ行ってほしいということがインタビューの中でも

度々聞かれたように、やはりこの見学実施の重要性も改めて確認ができたところです。一方で、こちらを裏を返せば見学に行かなければわからないことが非常に多すぎるというところと言えるかと思ひまして、必要以上に見学が重要になりすぎている、という見方もできるかと思ひます。

それ以降のところ、希望順の検討、申請書の記入や提出、結果の通知、このあたりに関しましては、子育てをしている中で、やはり複雑な書式の書類を読み解きながら、紙に記入するという時間を取ることに、腰を据えて書類に向き合って書くという時間を取るこが大きなハードルであるという声も聞かれております。したがってスマートフォン等で、隙間時間に少しずつ入力していけるようなオンライン化が、実際の子育て家庭側からは望まれておりました。

またデジタル化によって結果通知の迅速化ですとか、スケジュールの見通しが立つと、そういったところも副次的な効果として大きく期待されておりました。

これらを踏まえた理想の方向性としましては、調査の結論として、最大最速の情報提供というよりは、むしろそうではなくて、必要最小限の情報提供に向かっていく方がよいのではないかというふうに考えております。

やはり、インタビュー調査から得られた課題を正面から受け取りますと、もっと早く、もっとたくさんの情報が欲しいというような声が聞かれてはいますけれども、それは現状の保活プロセスの手探り感ですとか、見通しの立たなさというところに起因しているということが分かっております。従って、これさえ追っていれば、少なくとも申請までは辿り着けるといような、ワンストップのセーフティネットを用意してあげることが、今回の取り組みにおいては重要なのではないかと考えております。

現状の課題とその方向性を踏まえまして、デジタルを活用した理想の保活の流れをサービスブループリントの形で描いたものがこちらとなります。基本的には仮説ですので、参考までということになっております。こちら順を追って、左から保活のステップに沿ってご説明を差し上げます。まず、保活の開始の部分では、やはり健診ですとか、出生時など保活を実際に意識するよりも、前の段階でいかにタッチポイントを作り、保活全体のタイムラインですとか、アクションが必要なタイミングをプッシュ型で知らせることができる状況を作るかが重要だと考えております。

その次の保活全体及び保育園に関する情報収集のところに関しましては、1つのアプリケーション上に制度や用語などの基本情報を掲載すると同時に、あわせてより深掘りをしたい時や疑問点がある時に備えて、役所へのお問い合わせ導線を設けることで、まずはそのアプリケーション1つさえ見ておけば、最低限保活を進められるというような状況を作るということが重要だと考えております。

そして同じアプリケーション上からマップで近隣の保育施設を検索・比較・見学予約までをできるようにすることによって、パソコンの有無ですとか、表計算ソフトとの行き来をすることなく、保育所の検討ができるようになる状況を作ることも重要だと思っております。

また、こちらは実際どこまでできるかという難しい部分があるかと思ひますけれども、予め

世帯指数の目安を算出できるような情報を登録しておくことで、保育所の検索時点で、例えば前年実績から入りやすい可能性がある保育所のあたりをつけることができたりすると、より安心して、子育て家庭当事者にとっては検討ができるのではないかと考えております。

見学実施以降は今回スコープ外ではありますが、やはり同様にアプリケーション上に保育所の判断基準となるような情報を掲載しておくことによって、実際に見学実施する前の心の準備ですとか、より実際に目視で確認したいところのポイントが絞り込めるという意味で、見学実施の負担感を軽減できる可能性は大いにあるのではないかと考えております。

また、申請の部分は、アプリケーション上でこちらも比較した画面から直接申請や、結果通知の受け取りまでができるようになりますと、スマートフォン一つでいつでも確認ができるため、当事者としては時間的・心理的な不安を和らげて、保活に対する不安感を解消できるのではないかと考えております。

以上、簡単でございますが、保活ワンストップシステム検討の参考としてご参照いただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○ **飯嶋 オブザーバー(内閣官房デジタル行財政改革会議事務局 参事官)** 高井様、ありがとうございました。これは国として、書いてあることをそのまま実現してほしいという趣旨で申し上げているものではなく、あくまで参考として本日ご説明させていただいているものになりますが、利用者の方々がどういったことを求めているのかという観点から、参考になる部分も多いかと思っておりますので、今後のプロジェクトの具体化で、ご利用いただければと思っております。ありがとうございました。

○ **竹内 こども DX 推進担当課長** 高井様、飯嶋様、ありがとうございます。今の Takram 様からのご報告につきまして、何かご質問やご感想があればご発言いただければと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

保護者の方のニーズを踏まえた大きな方向性といいますか、考え方をお示しいただいたというふうに感じました。どうもありがとうございました。

それでは進めさせていただきまして次第7、意見交換の時間といたします。

次第 7.意見交換

○ **竹内 こども DX 推進担当課長** これまで東京都、GovTech 東京からの説明、また国の報告書の説明がございました。これらを踏まえて、何かこのプロジェクトに対する期待ですとか、ご意見ご感想でも結構ですのであるという方、ぜひ挙手をいただきたいと思っております。いかがでしょうか。では土橋委員お願いいたします。

○ **土橋 委員(一般社団法人 東京都民間保育園協会 副事務局長)** 東京都民間保育園協会

土橋です。ご説明色々伺う中で、保育施設の特異性といいますか、現状制度矛盾が色々あったりする中で、例えばICTの導入が全体的に遅れている業界であるのかなということと、進んでいるところとそうでないところの差が非常に大きいと思っています。なので、その部分も配慮すべきなのではと感じているところです。

あと基本、保育園制度上、特に国というところで考えると、常勤事務がおける状況にない制度設計になっております。ですので、この見学受付のシステム対応を誰がするのかということも、これは今回の保活以外のところだとは思いますが、制御していかなければ保育園の負担というのが減ることはないだろうと想像ができるということです。

また、見学対応についても同じように、常に本当に基準通りの人間を配置して保育をしているという中で、じゃあ誰が見学対応するのか？その見学案内についてのクオリティも各園で全く違うものになっていると思います。本当に施設だけを見てもらうところから、保育の説明をするところまであり、そのあたりのイメージも保育園の見学ということが今回保育所としてはメインになってくると思うので、そのクオリティについてもある程度の基準のような形を、私たち業界団体もそうですけれども、作る中で支援していかなければならないと思います。特に、常に見学ができるわけではないと考えると、この日に見たいと言って承認・不承認という形で、先ほどのご発言にありましたけれども、その調整ができるのかどうかなど、そういうことも大事になってくると思うので、そういったことも含めて、ご検討いただければなと考えております。以上です。

○ 竹内 こども DX 推進担当課長 ありがとうございます。他にご意見をご発言いただける方いらっしゃいますでしょうか。挙手いただける方がいないようでしたら、恐れ入りますが、こちらから順に指名をさせていただきます。進行の都合上、お一人様 3 分程度でお話をいただくと大変ありがたく思います。よろしいでしょうか。そうしましたら、まず板橋区立かないくぼ保育園の諏訪委員ご意見ご感想をいただけますでしょうか。

○ 諏訪 委員(板橋区立かないくぼ保育園園長) かないくぼ保育園の諏訪です。よろしくお願いたします。かないくぼ保育園ではコロナが5類になってから、年間で 100 組程度の見学があります。このシステムが進んでいくと、まず電話で対応するこちらの業務軽減につながる点での期待感があります。

ただし、電話の中で、実は発達について不安があるので、皆さんと一緒になくて、1組だけで見学させてほしい、そしてその時に発達について相談にも乗ってほしいというような具体的なお話が聞かれることがあります。

また、なかなか日本語でのやり取りが難しかったりですとか、対面だったり対話するからこそ、読み取れるものもあるので、システムの中でチェックするだけでなく、ぜひコメントのような形で、その方の育児での困り感や不満感、不安感が見学に対して伝わるような欄っていうのも作っていただけると、機械的にでなくて、今までの人と人がやり取りしていた部分も、もれなく丁

寧に対応していくことができると思っています。

また、見学する中で質問としてすごく多いところが「ベビーカー置き場ありますか?」とか「保護者が参加する行事はどんなものがありますか?」、「持ち物やかかる費用はいくらですか?」などたくさん質問事項をメモに書いてきてそれをお話すると書き取る方もいらっしゃいます。ですので、例えばこだわり検索のような形で、その利用者の方が、これが知りたいというものを、全部見なくてはわからないのではなく、検索して知りたい情報がパッと比べて知れるようなものがあると、もっと効率的に色々な情報を収集することができるのかなと思います。そうすることで、より自分にマッチした園に見学に行くことができ、片端から行くのではなく、情報収集した中で合ったところに見学に行くことができるのではないかと思います。

先ほどのお話でも出ていましたが、なにしろ園に行って自分で見て、それでその園の雰囲気とか、保育士がどのようにお子さんに接しているとか、環境がどうだとかという、見なくてはわからない部分を感じてほしいという点でも、よりマッチしたところに見学に行く流れができるといいなと思います。

最後に1つ、入園までのことが全部つながってできるとのことですが、実は入園した時に入園面談の時の書類が膨大にあります。家庭状況や勤務状況が、そこまで連携されると、保護者の方の負担はさらに軽減されるのかなと思っていて、もしそのような方法があるのでしたら、そのところまで繋がっていけるようなシステムになると、さらにありがたいなと感じました。

○ **竹内 こども DX 推進担当課長** どうもありがとうございました。続いて、オンラインでご参加いただいている足立区立伊興保育園の沢井委員いかがでしょうか。

○ **沢井 委員(足立区立伊興保育園園長)** 足立区伊興保育園の沢井です。よろしくお願ひいたします。諏訪園長先生のお話を聞いて、足立区もほとんど同じような状況だと思ってお話し伺っていました。伊興保育園では昨年、年間75組ぐらいの見学の申し込みをいただきましたが、ほとんど電話でお受けすると、その電話の中でもすでに相談が始まってしまって、そこで長いやり取りになってしまいます。

また園長や主任が電話を受けられない時に、折り返しのお電話をしなければならないので、利用する方からは、電話をかけてもなかなか申し込みを受け付けてもらえないというような状況もあるのかなというところもありますので、もっと利用しやすく、申し込みしやすくなれば良いなと思っていました。

あとは見学にいらした時に、色々なご相談を受けることがありますが、その前にまた、電話でも受けるという二度同じようなことになってしまうので、その申し込みがオンラインだと効率化できるのかなと思いました。以上です。

○ **竹内 こども DX 推進担当課長** どうもありがとうございました。では続きまして、調布市立富士見保育園 佐合并委員お願ひいたします。

○ 佐合并 委員(調布市立富士見保育園園長) 富士見保育園の佐合并です。保活、特に園見学に関して、園見学に来る方で、もうすでに就労している方というのも一定数いらっしゃり、そういった方々は比較的朝の早朝の時間だったり、18 時台の仕事が終わった後の電話だったり、平日園見学を申し込まれることが多いです。そうすると当番中なので職員の手も薄い中、さらに電話に出ることになってしまうので、これがオンラインで済むのであれば、保育の質も担保され、期待ができるなと思っています。

先ほどもご意見出ていましたが、園見学の内容について、もし見学に来る方がこういうところが知りたい、というニーズがあらかじめ分かるようなものと、その部分について詳しく説明できるなと思いました。今は私が園見学対応していますが、来た方には、広く浅くとか、どの部分が知りたいのかが最初はこちらもつかめないで、広く浅く、とりあえず説明をして最後質疑応答みたいな時間を取っています。この部分が最初から、ニーズとして、こちらが知れるとより便利になると思っています。ありがとうございます。

○ 竹内 こども DX 推進担当課長 佐合并委員ありがとうございました。続いてオンラインでご参加いただいております東京都社会福祉協議会の小林委員お願いできますでしょうか。

○ 小林 委員(社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 保育部会 常任委員) 東京社会福祉協議会 保育部会の小林でございます。よろしくお願いします。このコロナ禍を経て、色々と ICT 化が進んでいると思います。お話がありました通り、結構でっこみ引込みがあるという印象を受けています。うちも導入はしたのですが、本格的に始まったのは正直申し上げてこの4月からが大きく変わってきたところかなと思っています。

この話をいただいた時に、そういう背景も含めて、電話で受けるのがもう本当に当たり前になっていたの、それをデジタル化することに懐疑的な部分も少しあったのですが……。実はうちの職員で、出産を終え、これから保活に入るという職員がおります。例えば、多数の園に電話をかけるのが億劫だ、というふうに奥さんもおっしゃったみたいな話を聞くと、あ、そういうニーズがかなりある、というのがすごく身近に感じてきています。今回の取り組みに対して、非常に意味があることだな、というふうに、自分の中でも腑に落ちたところがあります。非常にタイトなスケジュールで進んでいるようですけども、何か一つでもお役に立てることがあればと思っておりますので、どうぞよろしくお願いします。

○ 竹内 こども DX 推進担当課長 小林委員、ありがとうございました。ここまで、保育関係の委員にご意見いただきました。保育団体の方のお話からは、現場 ICT 化の環境の状況も踏まえながら、浸透策を考えていかなければならないというところを感じました。

また保育現場の委員の方々からは、電話にかかる現場の状況ですとか、あとは人と人がやり取りしていたところを単純に機械化するのではなく、例えば事前にニーズがわかるような欄

を設けるなどして、コミュニケーションしやすくする必要があったと感じました。ありがとうございました。続いて、こども DX 推進協会の代表理事の小池委員お願いできますでしょうか。

○ 小池 委員(一般社団法人こども DX 推進協会 代表理事) こども DX 推進協会の小池です。今日は貴重なお時間ありがとうございます。各園長先生の生の声を先ほどお伺いさせていただきまして、確かに単に予約をするだけではなく、予約時にどのような情報が必要なのか、というところをシステム上で察知ができ、そのあとの園側のコミュニケーションの効率化、省力化につながるような情報収集ができればいいんだろうと、伺いながら思っております。

私の方からは 2 点ありまして、今回 120 施設が対応施設だと伺っていますが、その比率をもう少し高める政策をどうしたらいいだろうかという点と、「こども誰でも通園制度」との接続が将来的に予想されていると思いますが、その議論をどうするのかという二点について、理解を深めていきたいなと思えました。

令和6年度が随時入所、令和7年度が4月入所、そして令和8年度以降については「こども誰でも通園制度」との連携を考えるという流れのスケジュールが引かれているという認識をしていますが、今年の実証については、さほど利用対応施設が多くなっても随時入所なので、問題がないのではないかと思っておりますが、来年もし 4 月入所を対象とするのであれば、対応施設数が 25%というのは、少し少ないという印象があるので、これをどこまで広げていくことができるかなというところは1つ論点かと思っております。

「こども誰でも通園制度」との連携については、今回作る連携基盤はこの実証のみで使っていくものですから、スクラップアンドビルドで、その後は「こども誰でも通園制度」の総合支援システムに連携するというお話を伺っております。そのシステムの仕様をどうつくっていくかということも、こちらのプロジェクトと「こども誰でも通園制度」のプロジェクト両方が擦り寄って、仕様を決めていく必要があるという点について、協会としてもぜひ協力したいと思っております、そのあたりの議論をさせて頂きたいと思っております。

○ 竹内 こども DX 推進担当課長 ありがとうございます。1点目の園の数というところは、東京都も、来年度の予算要求を踏まえまして、事務局として考えているところでございます。まだモノができていないというところで、所管としては、どんどん広げていきたいという思いがありますが、今回の実証をしっかり踏まえ、効果検証も行った上で、どんな使い勝手か、どのようなことができるか、ということも年度後半に見えてくると思います。そこも踏まえて来年度、連携自治体などと一緒に検討していきたいと考えております。また、連携自治体について今年度は3区市ですが、来年度以降は都内の他の自治体の意向等も踏まえながら、拡大していければと考えております。2点目にお話いただいた「こども誰でも通園制度」のシステムとの接続につきましては、こども家庭庁の栗原委員おねがいします。

○ 栗原 委員(こども家庭庁 成育局 保育政策課長) こども家庭保育政策課長栗原でござ

います。「こども誰でも通園制度」は、今、試行的事業を実施いただいております。来年度は、いわゆる13事業の1つとして実施するという事で、各自治体による手上げの形での実施になり、令和8年度からは給付の世界での実施ということで、全都道府県、全市区町村で実施していただくこととなります。「こども誰でも通園制度」については、ご案内の通りで、来年度の手上げの事業の時期からは、国でシステムを構築しまして、予約やその類のことがデジタルでできる、という世界を作ろうとしております。その先、国の方も、今回東京都で先行的にやっていた上で、令和8年度に保活ワンストップシステムを「こども誰でも通園制度」のシステムを踏まえながら、そちらの方の改修の中で構築することを今、イメージしております。

おそらく話は2つあり、そもそも国のシステムはどうなるのか、というのが今の話の通りです。そしてもう1つが、こちらの東京都で実施されているものとの連携・連動をどう図っていくのかということでございますが、これもまさに今回 TYPES で国のお金も流れている中で作ったものが、どういうものになって、どういうふうに運営していくかを踏まえながら、国の方で、システム構築の進め方も含めどうしていくか、しっかり連携し検討していきたいと思っております。

ちょっと歯切れの悪い答えで申し訳ないですが、我々も今走りながらものを作って動かしているという状況もありますので、皆さんからご意見いただきながら進めていければと思います。

○ 竹内 こども DX 推進担当課長 栗原委員ありがとうございました。東京都でも、こども家庭庁さんの関係部署と日々コミュニケーションを取りながら、進めているところでございます。小池委員よろしいでしょうか。

○ 小池 委員(一般社団法人こども DX 推進協会 代表理事) はい、ありがとうございます。1点、自治体数を増やしていくというよりも、おそらく特定自治体における申請受付率を増やすことの方が大事だと思っています。保護者の目線からすると、自分が通える可能性のある施設のうちで、すべてオンラインで申請できると便利ですが、25%しかオンラインで申請できなければ、おそらく75%の電話の方を主にして活動してしまうはずなので、DXという観点では、なかなか進みづらいなと思うので、今回はまず、三自治体の中の利用・受付率をどこまで上げていくのかという点について1つ、目標値を作るといった取り組みも必要だと思っております。それ以外については理解できました。ありがとうございます。

○ 竹内 こども DX 推進担当課長 ありがとうございます。続いて、連携自治体の方にご意見を伺えればと思います。まず板橋区の保泉委員いかがでしょうか。

○ 保泉 委員(板橋区子ども家庭部 保育運営課長) 板橋区の保育運営課長の保泉と申します。我々、制度を導入する場合は、保護者の方の利便性の向上という点と、保育士の負担軽減ということを基本的にはセットで考えていきたいと考えております。そういう意味では、

我々は公立保育園36園ありますが、基本的には電話回線が一本しかありませんので、保活で電話を使うと、その他の連絡ができなくなることがございます。また電話の対応は保育をしながらなので、そういう点をシステムで補完できることは、非常に有益な事業かと考えております。

先ほど諏訪園長からお話ありましたが、とはいえデジタルだけでは拾いきれない需要もありますので、今回、制度を考えていく過程では、実際の運用方法も一緒に考えていくことも必要かと思っております。本日はありがとうございます。

○ 竹内 こども DX 推進担当課長 ありがとうございます。連携自治体さんとは隔週で打ち合わせをさせていただいて、また連携自治体さんを通じて保育施設の声も、引き続き吸い上げていきたいと思っております。ありがとうございます。では続きまして、足立区の高橋委員いかがでしょうか。

○ 高橋 委員(足立区 DX 推進アドバイザー) お世話になっております。足立区の高橋です。よろしく申し上げます。この度のお話いただき、足立区としても保育に非常に力を入れているため、非常にありがたいお話だと思っております。

やはり行政のサービスで、どうしても住民の方のサービス向上がいつもメインになってしまつて、保育士や我々自治体職員の負担軽減というのが、メインにされない部分としてあるかと思えます。

今回 Takram さんが、3者のニーズを把握いただき、そういった点をベースにしている部分は非常にありがたく思っております。昨日、東京都さんと実際の仕様や設計の話の中で、現場との意見のすれ違い等もありましたが、それを見事に1週間で課題解決に向けて進めてくれた点も非常にありがたく思っております。

今後も、住民のサービス向上はもちろんのこと、それだけではなく、全体最適というところを目指して、東京都さんと我々連携自治体と一緒にやっていければと思っております。引き続きよろしくお願いいたします。

○ 竹内 こども DX 推進担当課長 はい、ありがとうございました。続いて調布市の米内山委員いかがでしょうか。

○ 米内山 委員(調布市子ども生活部 保育課長) はい、調布市の米内山でございます。本日はご説明ありがとうございます。調布市では今年度、昨年度からスタートしました基本計画の二年次目、その中の大きな計画の一つとしまして、デジタル技術の活用を掲げ、横断的連携を図りながら、計画に位置づけた施策の着実な実施に取り組んでおります。

その中のデジタル化については、情報セキュリティやデジタルデバイド対策に意味を持ちながら、市民の方が来庁することなく、必要な手続きを可能にする、どこでも市役所の実現に向け

た取り組みや、基幹システムの標準化の対応などを進めております。

その中で保育課としても、デジタル化に取り組んでおまして、昨年度公立保育園にて、保育支援システムを導入し、保育園の入園申し込みについても一部デジタルサービスを活用した取り組みを開始したところです。

今回の保活ワンストッププロジェクトにつきましては、保育園の入園のための活動、いわゆる保活の負担を軽減するために新たなシステムを整備するというものですが、このプロジェクトに参加させていただきながら、利用する保護者の負担軽減とともに、事務職員や保育園の職員の利便性向上に向けた取り組みにつなげられればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○ 竹内 こども DX 推進担当課長 米内山委員、ありがとうございました。3 区市の皆様、今後とも引き続きどうぞよろしくお願いいたします。
続きまして、こども家庭庁栗原委員いかがでしょうか。

○ 栗原 委員(こども家庭庁育成局 保育政策課長) こども家庭庁保育政策課長栗原でございます。まさに DX の取組は、利用者さんの利便性の向上と合わせ、そもそも保育士の人材確保が困難な状況が今ある中で、これからますます生産年齢人口も減っていくということで、現場の業務負担の軽減という観点からも、食わず嫌いの世界ではなく、必ず進めていかなければいけないと思っています。

そこもまた、現場の効率化だけではなく、保育の質の向上につながるということで、国としてもプロジェクトをしっかり進めていきたいと思っています。

今回の東京都の取組は、重要な先行をさせていただいての取組ということで、こういう会議も含め、しっかりと我々もコミュニケーションをとり、国全体のプロジェクトに進めていきたいと思っております。

先ほどの話でも出ましたが、不参加の園をどうしていくかが重要だと思っています。システムはシステムとして、しっかりうまく利便性の向上に資するか、そういうところはすごく重要だと思いますが、参加しないところを参加していただくのは、行政全体として重要だと思っています。最初 25%ぐらいということですが、数値を上げていただくということだと思いつつも、なんで参加しないのかも確認していただき、そういう情報も我々にいただけると、国としても、こういうところが多分現場が難しいところだな、システムというよりは本当に入っていたかというところで難しいところだと分かるので、そういった情報も先行的な取組みの中で集めていただけるとありがたいと思っています。

もう一つ関連していることで、KPI のところで、今日お話を聞いて、「どうでしたか？」という満足度を取るのには、複雑にすると皆さんお答えすることも嫌になってしまうので、シンプルにならざるを得ないなと思いつつも、満足度は何が不満だったか、なぜその不満の回答をしたのかは、実は結構人それぞれだと思っています。そしてシステムに対しての満足度はトラブル

があると、保活全体が不満だとなると思います。今回システムに関しての満足度を回答いただくということなので、うまく回答いただく工夫も先行的にやっていただけると、我々も同じようにこれから国全体で進めていくにあたり、ありがたいと思っております。以上です。

○ 竹内 こども DX 推進担当課長 ありがとうございます。ご意見等踏まえて KPI の取り方は検討してまいりたいと思います。それでは、オブザーバーの飯島様いかがでしょうか。

○ 飯嶋 オブザーバー(内閣官房デジタル行財政改革会議事務局 参事官) ありがとうございます。本日、特に現場の声をいただき、これまでの検討の中で、我々があまり意識していなかった気づきの点もご指摘いただき、大変ありがたかったなと思っております。

今後どう広く巻き込んでいくのが課題になりますが、本日ご参加いただいていないという意味だと、保護者の方々、実際使っていただく方をどう巻き込んでいくのかも、今年度からの課題になってくると思います。そのあたりも東京都や、連携自治体の方々を中心に是非、周知し、広く巻き込める形をお願いできればと思っております。

目指している方向は皆さん一緒に、いいものを作って、みんなが楽になれるようにしていければと思っておりますので、ぜひこのプロジェクトがうまくいくようにご協力の方よろしくお願ひ申し上げます。

○ 竹内 こども DX 推進担当課長 飯嶋様どうもありがとうございます。それでは、いただいたご意見を受けて、GovTech 東京の土田委員、お願いいたします。

次第 8.閉会

○ 土田 委員(一般財団法人 GovTech 東京 デジタル戦略本部 デジタル戦略本部長)

GovTech 東京、土田でございます。本日はお忙しい中、委員の皆様、関係者の皆様、ご参加いただきましてありがとうございました。今回第1回の事業運営検討会ということで、まずは本プロジェクトの概要ですとか、委員の皆様のお考えですとか、今の環境ですとか、そういったものを皆さんと一緒に共有できたのかなと思っております。

我々GovTech 東京としても、先ほどの説明の中でもありました通り、システム面あるいは技術面のところから、まずは 10 月のリリースに向けて、連携基盤の開発、さらにリリース後の検証・改善に取り組んでいきたいと思っております。

また先ほど少し話が出ましたが、本プロジェクトの開発としましてはかなりタイトなスケジュールの中で行っておりますので、このような定期的な検討会ですとか、打ち合わせ等を通じまして、取組状況あるいは課題についても適宜、皆様にご相談ご共有させていただければと思っております。そして一緒に取り組んでいきたいと思っております。

本プロジェクトの成功に向けまして、これからぜひ皆様のご協力のほどお願いしたいと思っ

いますので、よろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。

○ 竹内 こども DX 推進担当課長 土田委員、ありがとうございます。福田委員、お願いいたします。

○ 福田 委員(東京都デジタルサービス局 こども DX 推進担当部長) はい、福田でございます。皆さん様々なお意見ありがとうございました。

まさに保育 ICT の導入が遅れているという実態や、見学予約対応の負担軽減、人と人の対面でのやり取りをいかに情報化していくか、そうするといかに保育施設の事務負担が軽減していくか、そういった課題とともに、期待感もおっしゃっていただいたと感じているところでございます。

我々やはりこのこども DX をなぜ進めているかと申しますと、子育て世代という方々が、スマホユーザーとデジタルネイティブというところがございます、デジタル化を進めていくにあたっては、やはりここをターゲットにしていくことで、どんどん社会的にも広がっていくのではないかとこの点も1つ期待感としてございます。

栗原様からも、あと小池様からも、繋がれば繋がるほどということで、より多くの保育施設の方々も含めて参加すると良いというお話をいただきました。まさにこのデジタルというのは、つながればつながるほど効果が高まる、というものでございます。ですので、まさに今年度のこの実証で、いかにその利用者の方々の満足度の高いシステムというものを作っていくか、この満足度の高いシステムができればできるほど、保育施設の方々にもぜひご参加くださいと、そういったお話ができると思います。

利用者の方々の利便性も高まっていくと思いますので、まず満足度を高めて、そこから広めていく。そういった考え方で我々も思っているところでございます。

今後こういった検討会がさらに3回ございます。システムが出来上がった後、ユーザーの方々のご意見も伺うことになっているところでございますので、利便性の高い、満足度の高いシステム構築に向けまして、様々なお意見いただきながら、進めていきたいと考えているところでございます。皆様のご協力、引き続きよろしくお願いいたします。

○ 竹内 こども DX 推進担当課長 ありがとうございます。本日の議事はすべて終了となりました。長時間に渡り、ご参加くださり、また貴重なご意見をありがとうございました。

以上をもちまして、保活ワンストッププロジェクト第1回事業運営検討会を閉会いたします。オンラインの方は、退出ボタンでご退室いただければと思います。皆様、本日は、どうもありがとうございました。